

No.11 別紙

1 活動名 【コロナ禍で災害と向き合う連続学習会】 第1回

2 研修の目的

(1) 本市における課題

突然起きた災害とも言えるコロナ禍で、市民生活に多大な影響を与えている。

(2) 研修の必要性

特にひとり親家庭の貧困と困難が加速度的に広がっている。どのような課題があるのか、特にジェンダーの視点で検討が必要である。

(3) 研修項目 研修内容に同じ

3 研修内容

(1) 日時 令和3年2月5日（金）19時～21時

(2) 会場 オンライン（ZOOM）

(3) 出席者 1名 神津ゆかり

(4) 内容

平常時の不平等が災害の被害を拡大する ～住まいの問題を含むひとり親家庭の困難から学ぶ災害の構図

講師

- ・葛西 リサ 氏（追手門学院大学准教授、専門分野:住宅政策、居住福祉、家族福祉）
- ・正井 礼子 氏（NPO法人 ウィメンズネット・こうべ 代表）

(5) 成果・所感等

災害というと、人的被害や家屋の被害をまず思い浮べる方が多いと思いますが、その被害の陰には格差が潜んでいます。生活再建においては、その格差は大きく生じる傾向にある。つまり、平常時の格差不平等とそれを生み出す社会システムが、災害の被害を拡大している。

平常時から厳しい状態に置かれている母子家庭の多くが、コロナ禍においてより一層困難な状況に直面してる。

ウィメンズ・ネットこうべの正井氏からは、コロナ禍で女性たちが置かれている現状を伺った。

追手門学院大学の葛西氏からは、平常時・災害時のいずれにおいても厳しいひとり親家庭の住まいをめぐる問題について伺った。

全体から見れば少ない数字かもしれないが、ひとり親家庭、しかも母子の家庭ほど、格差や困難が放置されている状況に目を向け、即座に対応する必要がある。

4 政務活動費

(1) 使途項目 研究研修費

(2) セミナー参加費 1000円